



Kashin Disclosure 2014

かしんディスクロージャー

鹿児島信用金庫



ごあいさつ

皆さまには、平素より鹿児島信用金庫に格別のお引き立てをいただき、誠にありがとうございます。日頃のご愛顧とご支援を心から感謝申し上げます。

ここに当金庫第92期業務概況と決算についてご報告するとともに、当金庫に対するご理解を深めていただき、今後一層のご愛顧を願って、ディスクロージャー誌「2014 かしんディスクロージャー」を作成いたしました。ご高覧の上、当金庫の経営内容についてご理解いただければ幸いに存じます。

さて、平成25年度前半は、日銀の大規模な金融緩和策に因る円高是正や株価上昇の影響で、輸出が持ち直す等の大企業の景況感の回復とともに消費マインドの好転に伴い個人消費が上向き、さらに緊急経済対策によって公共投資が拡大するなど、安倍政権が打ち出した「アベノミクス」が景気浮揚を牽引しました。

年度後半では、新興国経済の減速を受けて外需の停滞や輸出の伸び悩みが見られましたが、消費増税前の駆け込み需要によって個人消費や住宅投資が伸びたことで、景気は緩やかな回復を続けました。

私どもの地元鹿児島県においても、消費増税前の駆け込み需要や外国人観光客の増加などにより、景気は全体として緩やかながら回復してきております。

また、迎える平成26年度は、第一次産業の比率が高い鹿児島県にとって、政府が進めているTPP参加交渉の行方が大いに注目されており、今後の進捗状況によっては県内経済に影響を及ぼすことが懸念されております。

しかしながら、5兆円規模の追加経済対策は景気の下支え要因となり、また企業収益回復に因る設備投資の増加や賃金環境の改善などにより、景気の回復基調は維持されるものと予想されます。

このような環境の中、当金庫は、政府が日本再興戦略に掲げる産業基盤の強化、成長分野の育成、中小企業の活性化など、地域金融機関に求められる課題に即応できるよう地域密着型金融を推進し、地域経済の発展に寄与すべく全力で取り組んでまいります。

また、平成26年度は、中期計画「成長への挑戦」の最終年度として、持続性のある経営基盤の確立を目指し、地域になくてはならない金融機関となるべく役職員一同全力を尽くしてまいり所存であります。

皆さま方におかれましては、何卒、一層のご支援とご愛顧を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

平成26年7月

理事長 後藤 孝行



●コーポレートマーク



C O N T E N T S

ごあいさつ.....1
 当金庫の概要.....2
 役員.....3
 組織図.....4
 信用金庫のしくみについて.....5
 25年度の事業概況.....7
 中小企業の経営の改善及び
 地域の活性化のための取組の状況.....9
 リスク管理体制.....13
 コンプライアンス.....15
 金融A D R制度への対応.....18
 鹿児島信用金庫と地域社会.....21
 一年の歩み.....25
 業務内容.....29
 店舗一覧.....33
 信金中央金庫のご案内.....36
 資料編.....38

当金庫の概要

本店所在地 / 鹿児島市名山町1-23

創 立 / 大正11年10月1日

会 員 数 / 43,834人

出 資 金 / 40億37百万円

預 金 / 2,913億円

貸 出 金 / 1,904億円

店 舗 数 / 44ヶ店(代理店含む)

常勤役職員数 / 419人

(平成26年3月31日現在)



左から(山神常務理事、坂元常務理事、後藤理事長、中俣専務理事、原菌常務理事)

役員

(平成26年6月25日現在)

■理事長	後藤 孝行	■常務理事(経営管理部長)	山神 盛	■常勤理事(本店営業部長)	栗田 広次	■常勤監事	武田 文昭
■専務理事	中俣 義公	■常勤理事(監査部長)	田實 武人	■理事(相談役)	岩男 秀彦	■監事	上川路 長生
■常務理事	坂元 次男	■常勤理事(業務統括部長)	西 哲郎	■理事	近藤 健	■監事	東條 正博
■常務理事	原菌 勉	■常勤理事(営業推進部長)	田中 孝司	■理事	小正 芳史		

※監事 東條 正博は、信用金庫法第32条第5項で定める員外監事であります。

経営理念

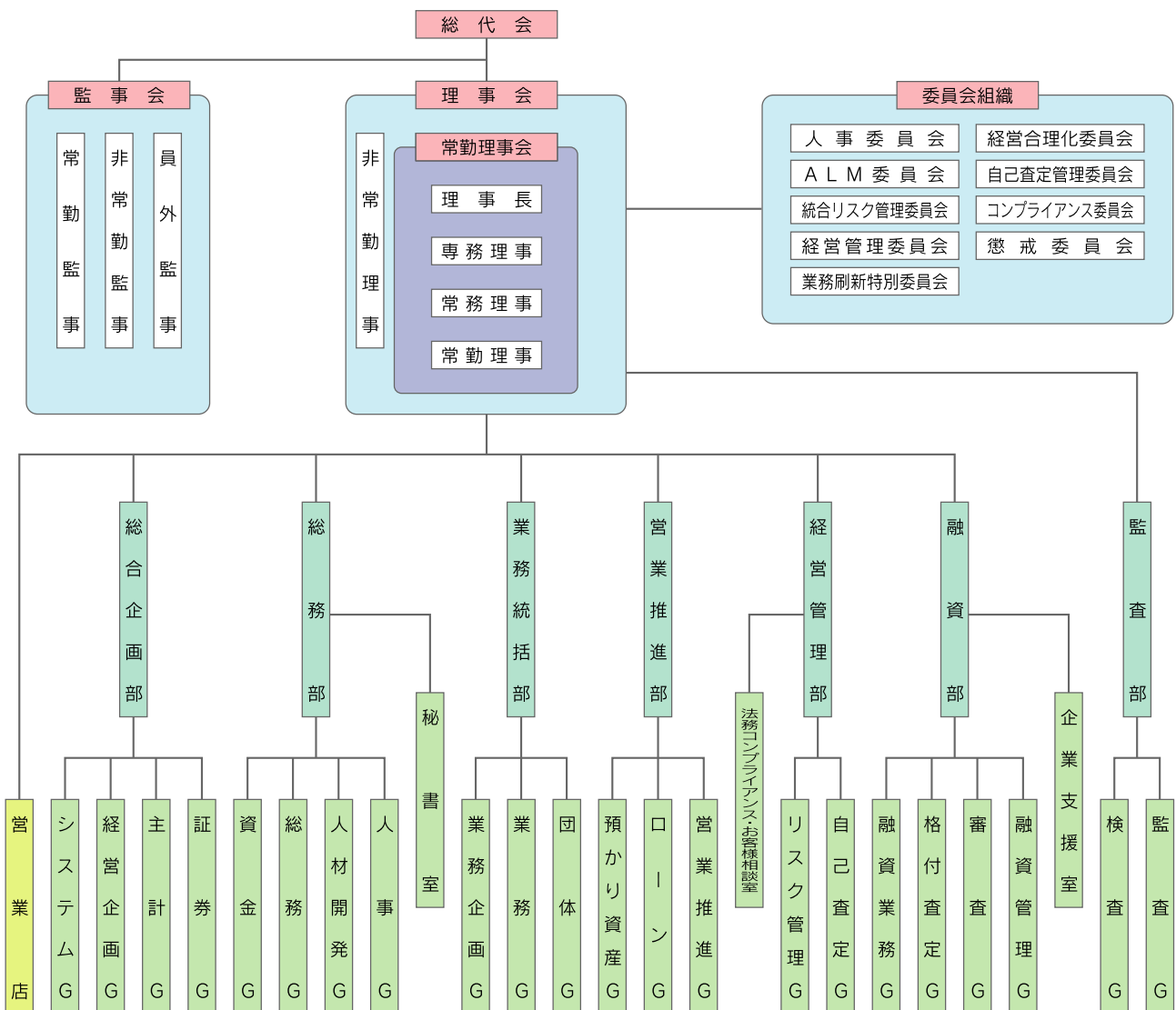
中小企業の健全な発展と地域社会の繁栄のため地域金融機関として密接な関係づくりに努めるとともに、経営活動を最大限に効率化し、いかなる環境変化にも耐え得る経営体質をつくりあげ、お客様の総合的パートナーとして、また地域文化の発展に役立つ金融機関として皆様とともに成長・発展を目指します。

基本方針

- 我々は地域経済の伸展に寄与する。
- 我々は自己の職責を誠実に果たす。
- 我々は中小企業者へ奉仕する。
- 我々はお互いの資質向上に努める。
- 我々は金庫の健全経営に協力する。

組織図

(平成26年6月1日現在)



信用金庫のしくみについて

総代会制度について

1. 総代会とはどういうものなのでしょう

信用金庫は、会員同士の「相互信頼」と「互恵」の精神を基本理念に、会員1人1人の意見を最大の価値とする協同組織金融機関です。したがって、会員は出資口数に関係なく、1人1票の議決権を持ち、総会を通じて当金庫の経営に参加することとなります。しかし、当金庫では会員数が大変多く、総会の開催は事実上不可能です。そこで、当金庫では会員の総意を適正に反映し、充実した審議を確保するため、総会に代えて総代会制度を採用しております。

この総代会は、決算、取扱業務の決定、理事・監事の選任等の重要事項を決議する最高意思決定機関です。したがって、総代会は総会と同様に、会員1人1人の意見が当金庫の経営に反映されるよう、会員の中から適正な手続により選任された総代により運営されます。

また、当金庫では、総代会に限定することなく、日常の事業活動を通じて、総代や会員とのコミュニケーションを大切に、さまざまな経営改善に取り組んでおります。

総代会は、会員1人1人の意見を適正に反映するための開かれた制度です



2. 総代とその選任方法(当金庫 定款24条～30条 及び 総代会選任規程)

1 総代の任期・定数

- ・ 総代の任期は3年です。
- ・ 総代の定数は150人以上180人以下で、会員数に応じて選任区域ごとに定められております。

平成26年3月31日現在

選任区域	会 員 数			主 な 営 業 区 域
	法 人	個 人	合 計	
1区	16,924	3,877	20,801	鹿児島市内
2区	3,252	482	3,734	加治木支店・蒲生支店・始良支店
3区	2,061	365	2,426	鹿屋支店・寿支店・志布志支店
4区	2,408	519	2,927	国分支店・隼人支店
5区	1,216	205	1,421	指宿支店
6区	4,620	954	5,574	串木野支店・湯之元支店・伊集院支店・高尾野支店 市来出張所・出水支店・川内支店・阿久根支店
7区	1,195	173	1,368	大口支店
8区	1,650	236	1,886	栗野支店・牧園支店
9区	2,166	364	2,530	枕崎支店・加世田支店・知覧支店
10区	1,008	159	1,167	宮之城支店
合 計	36,500	7,334	43,834	

2 総代の選考基準

- | | | |
|-------|------------------------------|----------------------------------|
| ①資格要件 | ・当金庫の会員であること | |
| ②適格要件 | ・総代として相応しい見識を有していること | ・行動力があり、積極的な方 |
| | ・良識をもって正しい判断ができる人であること | ・人格、見識に優れ、当金庫の発展に寄与できる方 |
| | ・地域における信望が厚く、総代として相応しい人であること | ・金庫の理念・使命をよく理解し、金庫との緊密な取引関係を有する方 |
| | ・地域での居住年数が長く、人縁関係が深い方 | |

第92期通常総代会

第92期通常総代会が、6月25日(水)「かしんアイホールビル」6階ホール(鹿児島信用金庫高見馬場支店)において開催されました。

総総代数157名中出席総代数152名のもと以下の議題が附議され、賛成多数で可決されましたことをご報告いたします。

- 報告第1号 業務報告、貸借対照表および損益計算書の内容報告の件
- 議案第1号 剰余金処分案承認に関する件
- 議案第2号 会員除名に関する件
- 議案第3号 役員の定数及び選任に関する定款の一部改正に関する件
- 議案第4号 監事の報酬総額の上限改定に関する件
- 議案第5号 理事並びに監事の選任に関する件



鹿児島信用金庫総代名

(平成26年6月25日現在 総代数157名 本誌掲載総代数157名)

記載の方々が当金庫の総代として、会員の方々を代表して当金庫の経営に参加されております。

※尚、ここに記載してあります総代の方々には、個人情報の第三者への開示について事前に同意をいただいて、公表しております。

<p>第1区</p> 長島 和 實 野田 健太郎 卓間 兼二郎 小田 正 弘 宮原 敏 孝 松山 保 村田 宏 六 堀切 博 生駒 一 雄 森重 匡 世 松山 明 允 吉富 秀 介 川島 英 和 田畑 勇 肥田木 康 正 梶井 銀二郎 岩元 耕 兒 岩男 直 哉 吉田 健 朗 小福田 博 橋口 俊 西村 佐多男 鶴留 政 博 上拾石 秀 一 鮎川 和 久 小手川 康 雄 町田 茂	<p>坂上 益 啓 片平 裕 康 新福 誠 一 上塘 守 内門 一 郎 川上 哲 三 森山 清 隆 時任 克 暢 山之内 浩 明 神村 茂 廣 永田 浩 二 中園 功 一 高山 博 行 窪田 茂 中村 純 田實 大志朗 福元 達 男 前田 幸 一 高橋 悟 赤塚 晴 彦 大迫 純 隆 成尾 虎次郎 五十嵐 芳 明 吉留 康 貴 川田代 勝 彦 上村 千 尋 末吉 高 尋 横村 讓 </p>	<p>末吉 晴 海 牧 清一郎 吉満 秀 勝 坂之上 義 紘 津曲 善 三 徳田 良 美 山元 茂 安楽 勉 中島 修 前田 孝 夫 福留 実 柳田 四 生 櫻井 輝 雄 藤井 清 弘 小木下 博 司 相良 栄 二 有村 信 一 吉村 博文 三井 清 隆 深水 清 秀 濱島 従 道 濱寄 一 郎 牧 安 伸 小坂元 幸 一 内大久保 清志 時村 友一郎 犬童 照 幸 </p>	<p>正村 幸 雄 隈原 衛 黒木 公 博 末重 堅 司 永野 貞 行 田中 久 嗣 橋口 一二三 黒田 清 忠 池田 清 前田 豊 和田 貞 則 斎藤 實 有園 耕 一 新 健一郎 和田 輝 明 水迫 邦 男 高木 博 志 岩越 隆 史 黒木 隆 之 榎 和 臣 山下 貞 光 吉永 廣 行 淵脇 利 文 山内 昌一郎 重久 盛 哉 岸 本 博 人 </p>	<p>中村 敏 治 中村 博 美 佐々木 邦 広 津田和 亨 末吉 忠 己 中村 勝 信 堀之内 茂 南 荒 生 後迫 芳 周 後瀉 操 服部 嘉 香 上夷 慶 克 松元 麟太郎 福元 隆 史 吉村 光 弘 松下 明 弘 今田 廣 己 松尾 泰 博 前原 くるみ 小平 竜 平 平井 勝 也 南津 清 文 富永 義 一 池田 貢 宇都 要 一 中 俣 知 大 </p>	<p>第7区</p> 白坂 裕 一 水間 良 信 神園 祐 治 椀山 勲 大橋 道 孝 藤井 純 博 中島 勝 美 内村 幸 男 田中 茂 山口 篤 典 大庭 勝 山口 克 典 平田 禮 一 松野下 清 英 松野下 功 一 揚野 俊 清 上釜 潤 一 山口 茂 樹 桐原 清 和 浮辺 正 和 戸谷 満 井川 清 隆 森 博 昭
--	---	---	---	---	---

25年度の事業概況

① 事業方針

平成25年度は、平成24年度からスタートした中期計画「成長への挑戦(平成24年4月1日～27年3月31日)」の2年目であります。

中期計画では、「持続性のある経営の確立」「課題解決型金融の強化」「独自性のさらなる発揮」を金庫全体の事業方針として掲げ事業に取り組んでまいりました。

② 金融経済環境

日本経済は、本格的な再生を目指した「大胆な金融政策」「機動的な財政政策」「民間投資を喚起する成長戦略」の「三本の矢」による一体的な政策の期待感から、金融市場は、円安、株高となり、家計や企業のマインド面においても期待感が先行する形となりましたが、その後、実体経済においても消費など内需を中心に景気は上向き、回復の動きが見られました。また、足元では消費税増税を控えた駆け込み需要が景気を押し上げる結果となりました。

県内景況は、全国的な経済施策の恩恵はまだ薄いものはありますが、雇用環境に一部明るい兆しが見えてきつつあり、個人消費についても消費税増税前の需要が多く見られ好調でありました。また、観光関連については外国人観光客の増加など昨年に引き続き高水準を維持しており、全体としては緩やかな回復基調となりました。

③ 業績

当期末における貸出金残高は、主に個人向け取引の拡大、保証協会の保証付き融資の推進により前期末に比べ30億67百万円増加し、1,904億91百万円となりました。

預金についても、個人向け取引の推進による年金振込やローン等の複合取引の増加により、前期末に比べ20億19百万円増加し、2,913億24百万円となりました。

収益面では、有価証券などの余資運用益の増加や経費削減による業務費用の減少などにより、業務純益は11億35百万円、経常利益は6億75百万円、当期純利益は5億73百万円となりました。

④ 事業の展望及び当庫が対処すべき課題

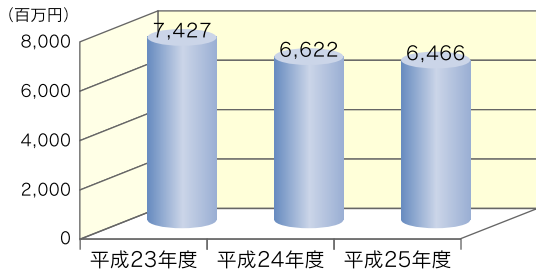
迎える平成26年度は、個人消費や住宅投資等で消費税増税後の反動減が懸念されますが、5兆円規模の追加経済対策による景気下支えや企業収益の改善に伴う設備投資、賃金改善など全体としては緩やかな景気回復が予想されます。県内においても、個人消費や住宅投資については反動減が予想されますが、政府が打ち出した経済対策による公共工事の増加に加え、一昨年より活況を呈している太陽光発電の新設は、県内各地で依然として続いていることなど、建設関連や設備投資に明るい材料もあり、景気は緩やかな回復が期待されております。

このような環境の中、当金庫は、政府が日本再興戦略に掲げる産業基盤の強化、成長分野の育成、中小企業、農林水産業の活性化など、特に地域金融機関に求められる課題にタイムリーに対応できるよう地域密着型金融を推進し、地域経済の発展に全力で取り組んでまいります。

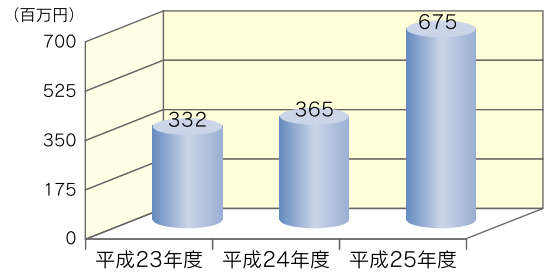
内部統制については、継続的に内部統制システムの整備を進め、その実効性を確保するため「内部統制基本方針」を定めています。本方針では、理事に委任することなく理事会が決定しなければならない重要な業務執行について、整備すべき態勢及び事項ごとに明らかにするとともに、より強固な態勢を築くため「コンプライアンス部門」「リスク管理部門」及び「内部監査部門」並びに「監事」が担う役割等についても定めており、当該基本方針の実効性の確保に一層努めてまいります。

また、平成26年度は中期計画「成長への挑戦」の最終年度として、持続性のある経営を確立し、地元企業や個人のお客様になくてはならない金融機関として、地域経済の活性化、持続的な発展に役職員一同全力を尽くしてまいります。

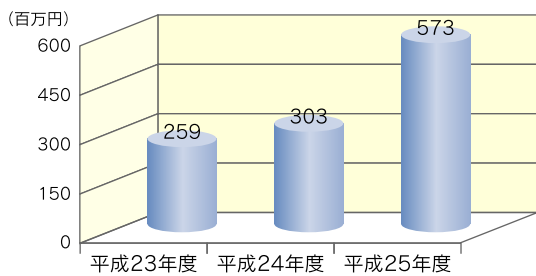
● 経常収益



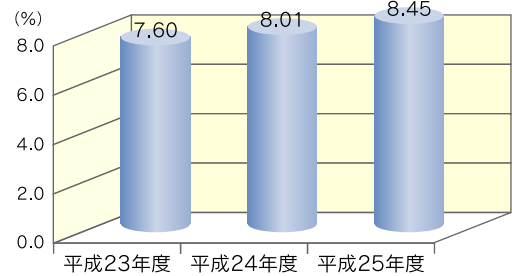
● 経常利益



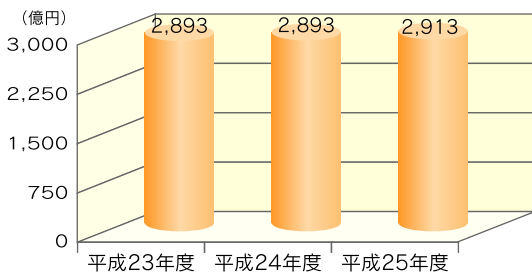
● 当期純利益



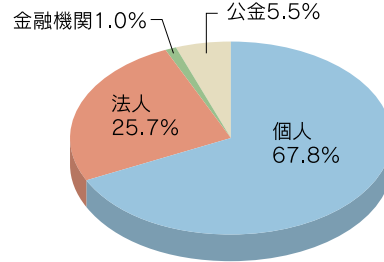
● 自己資本比率



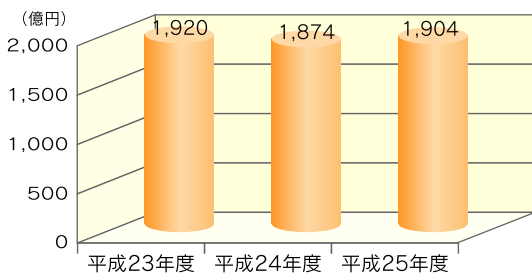
● 預金積金残高



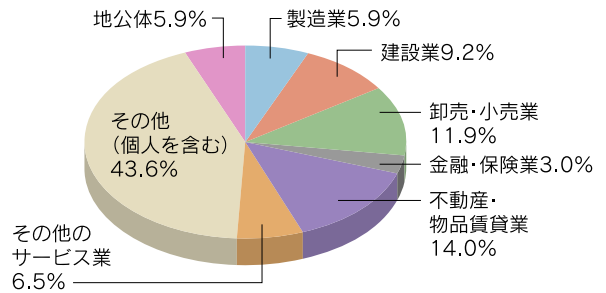
● 預金残高全体に占める預金者別割合



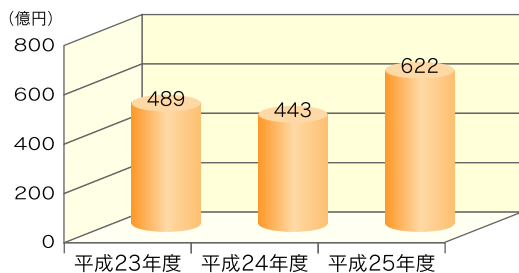
● 貸出金残高



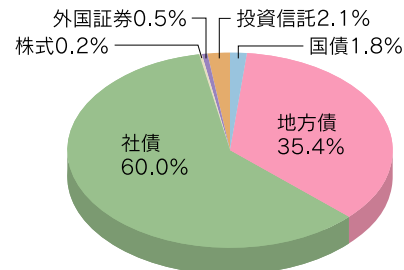
● 貸出金残高の業種別比率



● 有価証券残高



● 有価証券残高の内訳別比率



中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組の状況

地域金融円滑化のための基本方針

地域の中小企業及び個人のお客様に必要な資金を安定的に供給し、地域経済の発展に寄与するため、以下の方針に基づき、地域金融の円滑化に全力を傾注して取り組んでまいります。

1 取組方針

地域の中小企業および個人のお客様への安定した資金供給は、事業地域が限定された協同組織金融機関である信用金庫にとって、最も重要な社会的使命です。

私どもは、お客様からの資金需要や貸付条件の変更等のお申込みがあった場合には、これまでと同様、お客様の抱えている問題を十分に把握したうえで、その解決に向けて真摯に取り組めます。

2 金融円滑化の実施に向けた態勢整備

当金庫は、上記取組み方針を適切に実施するため、以下のとおり、必要な態勢、整備を図っております。

- ①当金庫では、お客様のご要望に応えるよう真摯に対応いたします。
- ②当金庫では、お客様の経営相談・経営指導・経営改善に向け積極的に支援いたします。
- ③当金庫では、金融円滑化管理方針及び同規程を策定しております。
- ④当金庫では、金融円滑化管理全般を統括する部門を設置しております。
- ⑤当金庫では、金融円滑化管理に関する担当役員等責任者を配置しております。

3 他の金融機関等との緊密な連携

当金庫は、複数の金融機関から借入れを行っているお客様から貸付条件の変更等の申し出があった場合など、他の金融機関や信用保証協会等と緊密な連携を図る必要が生じたときは、守秘義務に留意しつつ、お客様の同意を得たうえで、これらの関係機関と情報の確認・照会を行うなど、緊密な連携を図りながら地域金融の円滑化に努めてまいります。

平成25年度 経営改善支援等の取組み実績

(単位:先数)

	期初 債務者数 A	うち 経営改善支援 取組み先数 B	Bのうち期末に 債務者区分が ランクアップ した先数 C	Bのうち期末に 債務者区分が 変化しなかつた 先数 D	Bのうち 再生計画を 策定した先数 E	経営改善支援 取組み率 B/A	ランクアップ 率 C/B	再生計画 策定率 E/B
正常先 ①	2,403	4		3	1	0.2%		25.0%
要注意先 うちその他要注意先 ②	420	142	7	132	58	33.8%	4.9%	40.8%
うち要管理先 ③	27	27	1	25	21	100.0%	3.7%	77.8%
破綻懸念先 ④	94	48	0	46	26	51.10%	0.0%	54.2%
実質破綻先 ⑤	47	0	0	0	0	0.0%	—	—
破綻先 ⑥	21	0	0	0	0	0.0%	—	—
小計 (②～⑥の計)	609	217	8	203	105	35.6%	3.7%	48.4%
合計	3,012	221	8	206	106	7.3%	3.6%	48.0%

- (注)・期初債務者数及び債務者区分は25年4月当初時点で整理しています。
- ・債務者数、経営改善支援取組み先は、取引先企業(個人事業主を含む)であり、個人ローン、住宅ローンのみの先を含みません。
 - ・Cには、当期末の債務者区分が期初よりランクアップした先数を記載しています。なお、経営改善支援取組み先で期中に完済した債務者はBに含めるもののCに含めていません。
 - ・期初の債務者区分が「うち要管理先」であった先が期末に債務者区分が「うちその他要注意先」にランクアップした場合はCに含めています。
 - ・期初に存在した債務者で期中に新たに「経営改善支援取組み先」に選定した債務者については(仮に選定時の債務者区分が期初の債務者区分と異なっていたとしても)期初の債務者区分に従って整理しています。
 - ・期中に新たに取引を開始した取引先については本表に含めていません。
 - ・Dには、期末の債務者区分が期初と変化しなかつた先数を記載しています。
 - ・みなし正常先については正常先の債務者数に計上しています。
 - ・「Bのうち再生計画を策定している全ての先数 E」には、当金庫独自の再生計画策定先のほか、中小企業支援協議会、RCC、地域経済活性化支援機構、産業復興機構、東日本大震災事業者再生支援機構などと連携した再生計画策定先を含みます。

かしんビジネスチャレンジプラザ

「かしん経営大学」卒業生のフォローアップと県内の中小企業再生のための経営者育成および創業（起業・新規業種への参入を含む）を支援し、多彩なビジネスを創造することによって元気な地域づくりに貢献することを目的とし、さらに、単なる人材育成に終わらず、実際に創業者を数多く輩出・支援することによって地域産業の成長に貢献することをめざして、(株)創造経営研究所と共同で「かしんビジネスチャレンジプラザ」事業を行っております。

事業プロジェクト

(1) かしん創業プラン大賞

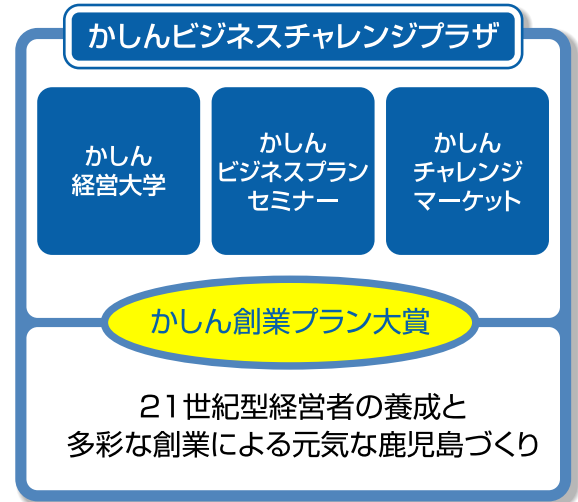
広く県民に対して、地域に貢献する「ソーシャルビジネス」や女性、高齢者、若者のビジネスプランを、積極的に募集、表彰する。また、創業後のバックアップまで含めたトータル支援により、新規創業の活性化と経営者の育成に取り組む。

(2) かしんビジネスプランセミナー

主に「かしん創業プラン大賞」の参加者を対象に、斬新なアイデアを形にするためのビジネスプランの作成手法とプレゼンテーション技術を学ぶ(1日コース)。

(3) かしんチャレンジマーケットinアミュプラザ

鹿児島中央駅アミュプラザ(平日3万人集客)において、当金庫の顧客、経営大学卒業生、かしん創業プラン大賞参加者等を対象に、顧客との対面販売を通じた商品(新商品・試作品を含む)のPR販売や、従業員の「売る気と売る技術」を磨くとともに顧客の反応を肌で感じ取る場を提供する。



かしん創業プラン大賞

かしんビジネスチャレンジプラザ事業の一環として取り組んでいる「かしん創業プラン大賞」については、書類選考・プレゼンテーション等による厳正な審査を行い、下記の通り各賞の受賞作品が決定いたしました。なお、表彰式は、平成26年5月23日にサンロイヤルホテルにて開催いたしました。

表彰を受けた方・表彰内容

● 優秀賞

「茶匠薩摩五人衆によるかごしま茶の販路拡大事業」
茶匠薩摩五人衆
代表 遷田 孝一 氏

● 奨励賞

「森林整備から木質バイオマスの利活用事業」
鹿児島県バイオフォレスト事業協同組合
代表理事 上村 清俊 氏

● 奨励賞

「花仙茶(けせんちゃ)製造販売事業」
世紀産業株式会社
代表取締役 原口 美津子 氏



かしん経営者フォーラム

「かしん経営者フォーラム」は、参加企業の成長・発展と人材育成を目的として経営学を学び、大いなる事業繁栄と地域の活性化を目指し、平成25年7月に開講いたしました。

特色 当金庫の取引企業の若手経営者や事業後継者を対象に、「経済・経営・財務・マーケティング・人事・労務・法務 等」の専門講師による経営学を学習します。

実施要項 ☆受講資格／当金庫とお取引のある企業の経営者および事業後継者
 ☆平成25年度開講期間／平成25年7月 開講式および第1回セミナー
 平成25年7月～平成26年5月(隔月 6回開催)
 奇数月 第2木曜日 午後2:00～4:30
 ☆セミナー会場
 かしんアイホールおよび鹿児島信用金庫研修センター



平成25年度 「かしん経営者フォーラム」 カリキュラム内容

- 第1回／鹿児島経済の持続的発展に向けて！／経営者に必須！就業規則の問題点チェック
- 第2回／変化に挑む！中小企業の熟き経営者たち／経営者に必須！ズバリ決算書のポイント
- 第3回／鹿児島観光の行方について／実践マーケティング経営のすすめ
- 第4回／成長分野としてのアグリビジネス／事業継承の成功戦略！強い企業作りを
- 第5回／アジアビジネスの最新動向／労働問題が多発！最近の訴訟事例と対応策
- 第6回／西郷隆盛と明治維新／中小企業支援施策のあらましと活用法

かしん経営大学

当金庫では、「経営戦略や企業発展を目指すための勉強をしたい」というお客様、特に若手の経営者の皆様方の声にお応えするために、期間1年間で集中して効果的に学べるスクール形式の「かしん経営大学」を平成8年から開校しております。

かしん経営大学ビジネスマッチングプラザ

かしん経営大学ビジネスマッチングプラザは、かしん経営大学生を中心として、主旨に賛同される地域企業の取引拡大やビジネスパートナー探し・新規事業開発をお手伝いするプロジェクトです。



かしんトップマネージメント大学

当金庫では、かねてより地域密着型金融の取り組みを積極的に推進しているところですが、お取引先法人企業経営者の人材育成の一助として「かしんトップマネージメント大学」を平成22年から開校しております。

かしん経営相談室

当金庫は、取引先の経営力強化の手法の一つとして「かしん経営相談室」を開設しております。経営についてお悩みの方はぜひご相談ください。

- 日 時：毎月第1・第3水曜日(10:00～12:00)原則月2回
- 会 場：かしんアイホールビル2階
- 対 象：当金庫取引先の法人企業経営者及び個人事業者
- 相 談：無料。予約制とし、事前に経営相談申込書を頂いたうえでご相談に応じます。

内 容

- ①経営全般の相談
- ②創業・新事業相談
- ③相続・事業承継相談
- ④税務相談
- ⑤その他

相談員

- 株式会社
アセットパートナーズ南九州
- 税理士法人
鹿児島さくら会計の税理士



地域活性化のための取り組み事例（串木野太陽光発電）

「日本で最も環境負荷の少ない工業団地」

取り組みに至った経緯

「いちき串木野市」は、平成14年度、平成19年度の新・省エネルギービジョン策定に基づき、地域全体でエコ・エネルギーの創製など地球温暖化防止、低炭素社会の構築に向けた事業推進を進めています。更に本工業団地構成企業は、以前から新エネルギーの導入や省エネルギー・省資源への取り組みに深い関心を寄せており、本工業団地で本事業を実行、具現化することは新モデル事業としての確であると考えておりました。そのために、第一段として本工業団地で「日本で最も環境負荷の少ない工業団地」を目指し、次に第二段階として市施設、地元企業、一部一般家庭まで拡げ、市民参加の地域ネットにおける自然エネルギー導入を図る。最終段階においては、前二段階の取組みを更に昇華させ工業団地にメガソーラーを導入、地方都市の先駆的な環境モデル都市を実現し、次世代エネルギーをベースとしたまちづくり、事業に伴う地域振興と活性化を目指すことで今回の取り組みが始まりました。

取り組みの具体的内容

事業内容：太陽光発電（2,793,771 kWh/年・予想）のパネル等の購入及び設置費用

事業達成のため合同会社を設立：合同会社さつま自然エネルギー

オブザーバー：鹿児島信用金庫、県内地銀

総事業費：970百万円 設置場所：各企業の空地、屋根

資金調達計画：金融機関750百万円、ファンド150百万円、出資金130百万円

当金庫は、県内地銀と2行庫での協調融資（当金庫の融資額407百万円）を行いました。

なお、本事業を推進しているいちき串木野市は、平成26年6月30日に、総務省より民間と連携、エネルギーの地産地消を目指すモデル事業の委託先として選定されました。

